

令和4年度 府立福知山高等学校三和分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 基礎学力の向上と希望進路の実現にむけての、生徒個々の実態に応じた指導の徹底</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力(5K力)の育成</p> <p>4 人間としての総合力の育成に向けた体験的教育活動の実践</p>	<p><b>(成果)</b></p> <p>1 学習環境の改善、生徒自身の学習に対する意識の向上等により、全体的に落ち着いた中で教育活動を行うことができた。</p> <p>2 新学習指導要領の本格実施に向けて、観点別評価やICTの研究が進んだ。</p> <p>3 進路面は、生徒・保護者との相談を継続的に行い、関係機関・就学相談員との連携を密にし、丁寧に進めることができた。</p> <p>4 コロナ禍により学校行事は中止や縮小等となったが、内容に工夫を加えることで充実した活動になった。</p> <p>5 個別の指導計画を基に全教職員でPDCAサイクルを回す等、種々な困難等課題がある生徒の実態把握や指導の手立てが共有化でき、個々の生徒に応じた指導ができた。</p> <p>6 「三和分校ルーブリック」「コグトレ」「キャリアパスポート」等の新たな取組を取り入れ、次年度につなげることができた。</p> <p>7 コロナ禍により、農業科、家政科の地域連携の回数は減ったが、形態等を変えることで地域貢献に資することができた。</p> <p>8 次年度の加工室設置に向けて農業科、家政科の合同会議を重ねることで、両学科の連携をより緊密にすることができた。</p> <p><b>(課題)</b></p> <p>1 卒業後を見据え、4年間で身につけたい力の育成を目指し、教育活動全体についての教育効果を検証し、改善・整理等を行う。</p> <p>2 特別支援教育の理解と研究をより一層推進する必要がある。</p> <p>3 生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに取り組む。</p> <p>4 加工室等の教育環境を活用し、農業科と家政科の連携をより一層強め、目標を明確にしなが、取組を推進する。</p> <p>5 BYODが始まるにあたり、ICTの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を進める。</p>	<p>1 基礎学力の定着</p> <p>(1) 「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。</p> <p>(2) 個に応じた指導により学習に対して努力を継続させ、やればできるという成功体験を通して、自信をつけさせる。</p> <p>(3) 規律ある授業環境の定着を目指す。</p> <p>2 原級留置・中途退学の防止</p> <p>(1) 生徒の実態把握に努め、個に応じた配慮・指導を行う。</p> <p>(2) 生徒個々に目標を立てさせ、学ぶ意欲をもたせる。</p> <p>(3) 基本的生活習慣の確立を促す。</p> <p>3 社会人になるための自覚を促す指導</p> <p>(1) 人権感覚を磨き、思いやりをもって他者と関わることができるようにする。</p> <p>(2) 販売実習や地域連携等の体験を通して、他者と協力することの重要性を認識させ、地域や社会の一員であることを自覚させる。</p> <p>4 生徒支援の研究と充実</p> <p>(1) 将来社会に出ることを見据え、認知機能を高める取組を行うとともに、スモールステップで課題を乗り越えていけるように、個に応じた指導や支援を充実させる。</p> <p>(2) 生徒個々の指導計画を作成し、支援を要する生徒の指導方法や授業の方法を研究し実践する。</p> <p>5 希望進路の実現</p> <p>(1) 保護者、各種関係機関と連携を深め、個に応じた進路選択・進路実現を目指す。</p> <p>(2) 低学年からキャリア教育を充実させ、卒業後の進路を早い段階から意識させる。</p> <p>6 OJTの推進</p> <p>(1) 教職員が取組の成果や課題を共有し、改善に向けた方策を積極的に議論できる雰囲気を作り、チーム力を高める。</p> <p>(2) 農業科と家政科のコラボなど、学科・教科・分掌等を超えた横断的な取組を積極的に行う。</p> <p>7 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>(1) 危機意識や防災意識を高め、日々の点検に努める。</p> <p>(2) 学校防災マニュアルにより生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立する。</p> <p>8 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 丁寧に家庭連絡・家庭訪問を行い、家庭との連携を密にし信頼関係を構築する。</p> <p>(2) 関係機関との連携・協働により、教育内容の充実を図る。</p> <p>9 府立高校特色化事業(京都フロンティア校)</p> <p>(1) 農業科と家政科との連携を一層強化し、活性化を図る。</p> <p>(2) 発表する機会を多く設け、役割を付与することにより、主体的に考え、表現し、行動する力を磨く。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織・運営	・教育目標達成に向けた取組体制の確立	・学校経営計画に基づき、各分掌・学科・教科それぞれが教育目標達成に向け、一体となって取組を進められるよう環境や条件を整備する。 ・OJTを推進し、教職員間の密接な連携のもと組織的・協働的に業務遂行が行えるよう配慮する。	B	B	・多くの分掌において所期の目標を達成できた。 ・教職員の業務の偏りがあることは否めなく、課題は残った。
	・生徒、保護者、地域のニーズに応える、開かれた学校づくりの推進	・生徒・保護者へのきめ細やかな対応により、個の特性に応じた丁寧な指導を行う。 ・体験セミナー・学校説明会や学校行事、PTA総会、各学科の取組やホームページを通して、昼間定時制や学科の特色を理解してもらう。 〔体験セミナーにおける参加者の満足度〕	A		
	・生徒募集を意識した広報活動の活性化	・新聞等の掲載回数が増えるように外部機関に積極的に働きかけたり、各中学校等、関係機関に学校案内を配布したりする等、分校の存在や教育活動を中3生に知ってもらう機会を増やす。	A		
	・府立学校特色化推進事業（京都フロンティア校）に関する取組の継続発展	・各学科の取組を教職員全員が理解し、支援する。 ・両学科の連携をさらに緊密なものにするとともに学校全体で地域連携・地域貢献を進める。	A	A	・学科の特色を生かし、地域貢献や学科間の連携事業を積極的に押し進め、一定の評価を得た。
事務部	・円滑で的確な窓口業務と分校全体を見渡した、教育環境の整備	・親切、丁寧な対応を心がけるとともに、援護制度等担任との連携を密にし、的確な事務処理を進める。 ・予算の有効活用と適正な会計事務を行う。	A	B	・保護者や生徒に対し丁寧な対応ができた。 ・分掌・教科と連携して効果的で適正な予算執行ができた。
	・危険箇所の早期発見、早期改修と校内教育環境の安全衛生管理	・安全点検を定例化し危険箇所の早期発見と迅速な対応に努める。 ・ゴミの分別回収と搬出、溝の消毒等校内の清潔、整理整頓に努める。	A		
教務部 (図書・視聴覚)	・授業規律の確保と、基礎学力の定着	・授業を受ける5つのルールを示し、生徒指導部・学年部・学習支援担当と連携して授業規律の確保に取り組み、個に応じた指導により、進級・卒業を目指す。 ・学習課題のある生徒の基礎学力を定着させるため、教科担当者と連携し、丁寧で分かりやすい授業で、わかる喜び、学ぶ意欲を育てる。 ・家庭との連携を密にし、生徒・保護者等の状況を十分に把握し、生徒のためにより方法を保護者と確認し、指導する。	A	B	・教科担当者会議等で日頃の授業の様子を共有し、全体での連携を図ることができた。 ・毎日の基礎学習、コグトレの実施により基礎となる力の定着を図ることができた。今後、教科担当者や担任との連携をより一層深める必要がある。 ・必要に応じて生徒や保護者との面談の機会を持つことができた。
	・基礎学習、トライ学習の充実	・基礎学習を効果的な学習とするため、取り組み方の工夫改善に努める。 ・新しいトライ学習を開始し、生徒の主体性、協働を促す。 〔新トライ 高評価の生徒割合〕	B		

		(29人以上)   (22人以上)   (15人以上)   (15人未満)			
		・基礎学力テストの結果を基礎学力の定着指導に活用する。	B		プしていく必要がある。 ・基礎学力テストの結果を全体共有し、意識を高めることができた。教科内での扱いについて、検討していく必要がある。
	・教育課程のスムーズな運用	・新教育課程をスムーズに運用できるよう、各教科との連携を密にする。	B	B	・各教科との連携を図りながら、ミスのないよう進めることができた。ただ、新教育課程における評価について、全体共有する場を設ける必要があった。
	・授業力の向上	・学習用端末の効果的な使い方を提案し、活用を促す。 ・公開授業など、互いの授業を参観することにより授業力の向上を図る機会を増やす。 〔公開授業参加延べ回数〕	A	A	・公開授業参加回数は延べ32回であった。年に2回の公開授業週間を設けることで、授業参観の機会を増やすことができた。 ・学習用端末を用いた授業について、今後も交流し、共通理解を図っていく必要がある。
	・校務システムのスムーズな運用	・授業時数の確保、指導要録・出席簿等の表簿の適正な管理を行うことにより、教育計画の適正な実施を図る。 ・校務システムに係るOJTを行う。	A	A	・表簿の適正な管理を行うことができた。
	・図書室の有効活用	・蔵書の充実を図り、昼休みの開館を続けることにより、より生徒に身近な存在となるようにする。	A	A	・教員や生徒からのリクエストを基に蔵書の充実を図ることができた。また、キャンペーンを実施し、読書活動を促すことができた。
生徒指導部	・自己肯定感の育成及び規律ある生活習慣の確立に向けた指導を行う	・各分掌と協力し、全ての生徒が落ち着いて、前向きに、安心して学校生活を送れる安全で規律ある環境作りを行う。 ・特別活動や部活動など他者との関わりの中で自分の強みを見つけ、成功体験を通して自己肯定感を育む教育を行う。 ・4年次の進路実現を意識し、社会性やコミュニケーション能力育成のため、挨拶や言葉遣い、身だしなみを日常的に指導する。	A		・全体的にとても落ち着いて、楽しく学校生活を送れている。 ・全校生徒でバス遠足を行うことができた。縦割りの活動班で他学年との関係を作ることができ、その後の学校生活でもよい関係を保つことができています。 ・ルーブリックの取組を進めることで、声を出して自分から朝の挨拶ができる生徒も増えており、服装頭髪が乱れている生徒もとても少なくなっている。
			A		
			A	A	
	・納得と説得を基本とする丁寧な生徒指導を行う	・生徒個々の事情や特性、家庭の状況に配慮し、個に応じた適切な指導方針を考え、丁寧な指導を行う。 ・教職員全員で指導方針を共有し、本人はもちろん家庭にも理解と納得のいくねばり強い指導を行う。	A		・生徒の特性や家庭状況に配慮した指導を行うことができた。 ・今年度も問題行動を起こす生徒は少ないが、生徒の特性等に関わる問題行動についても、引き続き注意力や意識、道徳観等を育てていく必要がある。
			A	A	
・生徒会活動の活性化と自主性の確立を目指す	・体育祭や文化祭などの生徒会活動やクラスの取り組み、放課後の部活動を活性化させ、生徒の自主性や社会性を育てる。 ・委員会や係、学校行事、ボランティア活動等での他者との関わりを通して、責任感や他者への思いやり、助け		A		・コロナ禍の中で、生徒たちの意見をと取り入れながら感染防止を考慮したかたちで生徒会行事を行うことができた。また、文化祭では今年度もクラスの取組を行うこ

		合いの精神を身に着けさせる。	A		とができた。保護者の参観を行うことができた。 ・恒例の地域清掃を行った。								
進路指導部	・希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生との相談活動等の充実を図るとともに、家庭及び関係機関・就職支援教員等との連携を図る。</li> <li>・入試・就職試験等に向けて丁寧な指導を行い、生徒全員の希望進路の実現を目指す。</li> <li>・希望進路の決定・実現に向け低学年時からの指導を推進する。</li> </ul> [2学期個別面談時の進路指導件数] <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>32件以上</td> <td>31件～26件</td> <td>25件～21件</td> <td>20件未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	32件以上	31件～26件	25件～21件	20件未満	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生については、生徒及び保護者との相談を継続的に行い、関係機関・就職支援教員との連携を密にし、個に応じた指導を丁寧に進めることができた。</li> <li>・1～3年生徒の個別面談を2学期に実施し、卒業後の進路について指導した。</li> <li>・4年生の進学希望者に出願書類等の指導を実施した。</li> </ul>
			A	B	C	D							
			32件以上	31件～26件	25件～21件	20件未満							
A	A												
A													
	・援護制度の紹介と活用	・個々の生徒の進路希望や経済的な課題等をより早期から丁寧に把握し、進路にかかわる費用や援護制度に関する情報を適切に提供する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生には4月の四者面談時に、個別に「学生支援機構奨学金」をはじめとした支援制度についての情報提供を行った。その他の奨学金についても、人権教育部と連携して取組を進めた。</li> </ul>								
	・職業指導・キャリア教育の改善・充実及び教員の進路指導力の向上	・就職指導に関する教職員研修を実施する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に教職員研修を実施した。就職慣行等について共通理解を図ることができた。</li> <li>・3・4年生はLHRで継続的に進路学習を実施した。1・2年生は担任が区切りごとに進路についての指導を実施した。</li> </ul>								
保健部	・感染予防対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い・消毒の励行、マスクの着用、三密の回避、黙食等、感染予防対策への指導を徹底し、意識の向上と定着を図る。</li> <li>・朝の健康観察のデジタル化を図り、教職員間で情報共有がスムーズに行えるよう工夫する。</li> <li>・CO2モニターを活用した教室内の換気の取組など、保健／環境美化委員会とも連携した活動を進める。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策への指導を継続し、手洗いやマスクの着用、黙食等が定着してきている。朝の健康観察をデジタル化に移行したが、入力忘れも多く、継続した指導が必要である。</li> <li>・委員会を活用し、CO2モニターによる教室内の二酸化炭素測定を継続できた。数値を確認して換気をする等、空気を清浄に保つよう取り組んだ。</li> </ul>								
	・健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断における事後措置の充実を図り、必要に応じて個別指導を行う等、受診率の向上を目指す。</li> <li>・歯の健康に係わるアンケートを実施し、学校歯科医とも連携しながら実態に応じた保健指導の充実を図る。</li> <li>・ほけんだよりを発行し、心身の健康について生徒の興味関心に繋がるよう内容等を工夫する。</li> </ul> [ほけんだよりの発行回数] <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回以上</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断より受診の必要な生徒には、個別に受診勧告等を行ったが、大きな受診率の向上には繋げることができなかった。</li> <li>・保健・環境美化委員会が中心となり、学校での歯磨きの奨励や、ポスターを活用した歯の健康についての周知等に取り組むことができた。</li> </ul>
A	B	C	D										
6回以上	5回	4回	3回以下										

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や専門機関等との連携を的確に行い、生徒へのきめ細やかな指導と支援をする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席過多や配慮を要する生徒について、教育相談会議を実施し、共通理解を図ることができた。特別支援連絡調整会議との棲み分けについて、一定整理ができた。</li> </ul>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境が清潔に整然と保たれるよう環境美化委員会を中心に呼びかけを行い、福知山市のゴミ分別を徹底する。 [ゴミ分別チェック実施回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週のゴミ回収日には技術職員からの協力を得ながら、環境美化委員会によるゴミ分別の点検を行い、徹底できた。</li> </ul>
A	B	C	D										
3回以上	2回	1回	0回										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教職員による校舎内外の安全点検を定例化し、学習環境を整備する。 [安全点検の実施回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに校舎内外の安全点検を行った。</li> <li>・トイレの洋式化や昨年度の調理室等の改修工事に伴い清掃用具を整理・新調するなど、環境を整えた。</li> </ul>
A	B	C	D										
3回以上	2回	1回	0回										
人権教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識の高揚と、自他を尊重できる集団づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育会議を開催し、日常的に点検確認するとともに、生徒対象の講習会や教職員研修会を各部と連携して行う。</li> <li>・人権アンケートの結果を生かし、講演等を計画する。また、いじめやかからかいなどの問題について、生徒指導部、学年部と連携して対応する。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議はあまり開催することができなかった。例年行っている取組は実施できた。</li> <li>・人権アンケートも実施する事ができた。結果を来年度の人権教育や道徳教育に活かしていきたい。</li> <li>・保健部と連携した教職員研修を行った。</li> </ul>								
			B	B									
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きめ細かな、就・修学援助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金等について、保護者・担任・事務・各関係機関と連携を図り、速やかに案内や指導、申請をする。</li> <li>・通学費補助や、進学・就職支度金等に関する手続きなどに的確に対応する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種奨学金や補助についての案内や連絡、必要な手続きを行った。</li> </ul>								
学習・特別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握と支援体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任、教科担当者との連携を密にし、面談の機会を利用するなどして生徒の実態把握に努め、必要な生徒への具体的な支援目標と方法を検討する。</li> <li>・特別支援教育連絡調整会議を開催し、支援を要する生徒の特性・問題状況の確認及び支援員の配置の調整等を行う。</li> <li>・必要に応じてケース会議等につなげていく。 [会議開催回数]</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>3回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	6回	5回	4回	3回以下	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任、教科担当者と連携し、本人の課題に合わせた具体的な支援目標を設定することができた。支援方法については、全体で共有を図り、検討することができた。</li> <li>・今年度は6回の連絡調整会議を実施し、定期的に生徒の情報共有や共通理解を図ることができた。必要に応じて、ケース会議や巡回相談につなげることができた。</li> </ul>
			A	B	C	D							
6回	5回	4回	3回以下										
A	B												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画作成にあたり、担任や教科担当者と協力し、アセスメント表の作成・充実を図る。</li> <li>・個別の指導計画は、本人・保護者の思いを踏まえて作成し、互いに共通理解が図れるよう連携・相談を進める。</li> <li>・コグトレの本格運用に向け、活性化会議とも連携しな</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と連携し、本人・保護者の思いを基にした個別の指導計画の作成を行った。面談時に、生徒・保護者と目標を確認し、共通理解を図ることができた。スムーズな</li> </ul>								

		がら生徒への実施、評価を行う。	B	B	作成にむけ、生徒や教職員への早めの連絡調整が必要である。 ・コグトレの実施について、活性化会議との連携や、実施結果の活用等が課題である。
	・指導支援方法等や生徒理解に関する教職員の資質向上	・生徒の得意と苦手を理解した指導を進めるため、早期からの巡回相談の活用を目指す。担任・家庭との連携の強化や、本人への分かりやすい説明の充実を図る。 ・関係機関、校内の関係分掌と連携し、生徒理解を深めるための教職員研修会を実施し、特別支援教育について正しく学ぶ機会の充実を図る。	B	A	・担任と連携し、必要な生徒には早期に巡回相談を実施することができた。中丹支援学校の協力のもと、資料を使用し、生徒・保護者への分かりやすい説明に努めたが、理解につながる説明の工夫が課題である。 ・コロナ禍の影響を踏まえ、SSCの動画配信による教職員研修を実施した。
	・移行支援の充実	・中高連絡会や個別の移行支援シート等をもとに、必要に応じて本人・保護者との入学前面談を実施し、切れ目のない支援を目指す。 ・進路指導部と連携し、福祉的就労について生徒・保護者への情報提供を進め、関係機関とも連携しながら、卒業後を見据えた指導の充実を図る。	A	A	・今年度、中学校より移行支援シートを引き継いだ生徒に対して、生徒・保護者との入学前面談を実施した。事前に必要な配慮事項等についての確認ができ、スムーズな移行支援につながった。 ・福祉的就労が必要な場合、早い段階からの取組が課題である。
学年部	・確かな人間力の向上	・普段の挨拶や言葉遣い、丁寧な字を書く力、時間厳守など社会で通用する力を向上する為、日頃の指導を徹底する。	B	B	・三和分校「ループリック」を活用し、目指す人間像を示した。学期や行事ごとにポスターを作成し、声掛けを行った。また、学期ごとに振り返りを行い、自身の成長を確認する環境を整えた。
	・生徒が集中できる授業環境の確立	・授業を受ける5つのルール of 定着を目指し、統一した指導を徹底するとともに教室の整理整頓、美化に努める。	B		
	・希望進路の実現	・4年間を通して、進路への意識を高め進路実現を目指すために、生徒に適切な情報を提供する。また、低学年からの進路指導を推進するために進路指導部と連携して1～3年生の個別進路面談を実施する。 〔1～3年生の進路面談実施率〕	A	A	・進路指導部と連携し、学年に応じた進路指導ガイダンスや個人面談を行うことで、進路への意識を高めることができた。
		・アルバイト等の就労体験を奨励し、進路指導部、生徒指導部、特別支援教育コーディネーターと連携を図り、個に応じた指導をする。	A		・各分掌と連携し、個に応じた丁寧な対応ができた。
	・情報の共有	・面談や家庭連絡を丁寧に実施し、個々の生徒の課題や特徴を把握し、日々の指導において、効果的で迅速な対応をする。 ・日頃から生徒に対する教職員間の情報共有を図り、個々の生徒の共通理解に努める。定期的に学年部会を行い、統一した指導を徹底する。	A	B	・家庭との連携を密に取り、些細な変化を見逃さないよう、効果的な対応ができた。 ・定期的に学年部会を開き、情報を共有し、統一した指導ができたが、分掌間での情報共有が不十分な面があり、さらに密な連携が必要である。
	・研修旅行の計画・実施	・研修旅行の成功に向け、生徒とともに準備し、安全で	B		・研修旅行の参加に向けて生徒へ

		効果的な教育活動となるよう取り組む。 ・感染症対策を講じた中での実施となるので生徒・保護者への、より丁寧な説明と案内をする。	B	B	の効果的な指導ができた。																							
農業科	・農業に関する専門知識や技術の学習を通して、「生きる力」を身につけていく	・各学年ごとの生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。 ・実習では体験的で実践的な授業を通して、生徒にチームワーク、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力向上を図る。	B	B	・生徒の実態に応じ、工夫しながら指導することができた。 ・課題研究等の取組を引き継いで行くことが必要である。 ・様々な実習を通しチームワーク、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。																							
	・地域連携の推進	・農場生産物の販売を積極的に行い、地域から必要とされる農場運営を行う。 ・福知山市や地域の企業と連携した取組を充実させる。 〔連携回数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	A	・野菜苗や花苗を地域の方に販売した。 ・年間を通して計画通りの連携ができた。															
	A	B	C	D																								
	5回以上	4回	3回	2回以下																								
・希望進路実現のための資格取得等への取組	・校内行事や府連各種行事に積極的に取り組み、農業クラブ活動の更なる活性化を目指す。 ・農業関連資格取得に意欲的に取り組ませる。 〔小型建機受講者数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5人以上</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> </table> 〔ワープロ検定受検者数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5人以上</td> <td>4人</td> <td>3人</td> <td>2人以下</td> </tr> </table> ・教育長表彰取得率の向上を目指す。 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79%～50%</td> <td>49%～20%</td> <td>20%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5人以上	4人	3人	1人	A	B	C	D	5人以上	4人	3人	2人以下	A	B	C	D	80%以上	79%～50%	49%～20%	20%未満	A	B	・食品衛生管理者については、現在までに取組ができていないが、今後はチャレンジできるようにしていきたい。 ・危険物取扱者試験にチャレンジする生徒がこれまでは少数であったが、今年度は受験希望者が増加した。
A	B	C	D																									
5人以上	4人	3人	1人																									
A	B	C	D																									
5人以上	4人	3人	2人以下																									
A	B	C	D																									
80%以上	79%～50%	49%～20%	20%未満																									
・家政科・各教科との連携	・新たな資格取得にチャレンジさせていく。 (食品衛生責任者等)	C																										
	・家政科との連携をさらに深め、現在行っているコラボ授業や合同授業の充実を図る。 ・普通科目と連携した取組を行う。 ・加工室の利用について家政科と有効的な活用方法を検討する。	B	B	・食品加工室の使用に関わり、規格外野菜を提供し利用してもらうことはできたが、合同授業や普通科目との連携は十分できなかった。																								
家政科	・基礎的専門的な知識・技能の定着	・実習等を通して基礎的・基本的な知識・技術の修得を図り、学習したことを実生活に活用する意識や態度を養う。 〔フードデザイン・ファッション造形の実技テスト回数〕 <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	A	A	・実技テストを考查期間中に各科目で実施した。知識・技術の習得に効果的であった。 ・1年生の専門科目の目標に合わせた活用法について検討した。記録を技術習得に役立てる、表現し多様なものの見方に触れる機会を増やすことに重点を置いた。															
	A	B	C	D																								
5回以上	4回	3回	2回以下																									
・資格取得への挑戦	・生徒の実態を考慮した上で家庭科技術検定等を計画的に実施するとともに、合格率60%を目指す。	B		・家庭科技術検定の合格率は100%であった。色彩検定やプレゼン																								

		[資格試験の合格率]	A	A	テーション検定など新たな資格・検定取得を生徒に呼びかけ、挑戦できた。(合格率77%)								
		<table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>60%以上</td> <td>59～50%</td> <td>49～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	60%以上	59～50%	49～40%	39%以下			
A	B	C	D										
60%以上	59～50%	49～40%	39%以下										
・社会とつながる教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講師活用事業や地域の保育・福祉施設での実習を通じて、教育活動の充実と活性化を図る。</li> <li>・家政科の教育活動を広報するため、ホームページの定期的な更新を行う。</li> <li>・家庭クラブ活動を計画的に運営し、活動の充実・活性化を図る。</li> <li>・各科目の授業と家庭クラブ活動を組み合わせ、教育効果の向上を図る。</li> </ul>		A		・保育園・福祉施設での実習等、校外学習が少しずつ再開できた。								
			A	A	・販売実習やラジオ出演等、生徒が校外で学習をする機会となった。								
			A		・年度当初の計画を変更・修正しながら、役員を中心に活動し、計画的で自主的な運営ができた。								
・農業科との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取組をさらに進め、食品加工室を活用した授業を展開する。</li> <li>・農業科との販売実習を計画・実施する。</li> </ul> [校内・校外での販売実習実施回数] <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のできる食品加工室運用に取り組む。</li> </ul>	A	B	C	D	3回以上	2回	1回	0回		A	A	・4年生の専門科目「課題研究」「フードデザイン」「消費生活」のカリキュラムマネジメントにより、食品加工実習を効果的に実施した。
		A	B	C	D								
3回以上	2回	1回	0回										
			B		・販売実習を14回実施した。段取りをする力やコミュニケーション力が向上し、社会とつながる学習の機会となった。								
					・食品加工室をスムーズに運用するために、両学科で定期的に打ち合わせを実施した。今後も連携を取り、共通のルール作りを進めていく。								

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三和分校の周囲から求められている役割は大きい。</li> <li>・志願者が増えたのは、様々な取組を行ってきた成果で、今後も続けてほしい。</li> <li>・本校(全日制、附属中)の生徒とも連携することで、さらに福高としての強みが出てくる。</li> <li>・市の取組にも三和分校は関わっていて、地域の活性化にもつながっている。</li> <li>・教職員の人数が限られた中での教育活動は厳しいものがある。コーディネーターやNPO法人等の外部の力を利用する方法もある。</li> <li>・就職希望者の進路実現に向けて、インターンシップの機会をさらに増やし、企業側にも三和分校の特色を広報する。</li> <li>・生徒自身が出身中学校に出向き、高校の魅力を発信する等、生徒も広報に係る方法を検討する。</li> </ul>
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後を見据え、4年間でつきたい力の育成を目指し、教育活動全体についての教育効果を検証し、改善・整理等を図る。</li> <li>・多様な生徒の実態把握に努め、引き続き教職員全体に情報を共有し、教育活動を行う。</li> <li>・特別支援教育の理解と研究をより一層推進し、一人ひとりの成長に向けた支援をより具体的に行っていく。</li> <li>・生徒同士の理解を深める取組を進め、互いに尊重し合い高め合える学級・学校づくりに取り組む。</li> <li>・加工室等の教育環境を活かし、農業科と家政科の連携をより一層強め、目標を明確にしなが、取組を推進する</li> <li>・ICTの効果的な活用方法も含めた授業改善及び評価方法等、新学習指導要領の理念に基づいた教育活動を進める。</li> </ul>
---------------	---